

『キタイの行方』

◇登場人物

- ・ 男1 (喜久山)
- ・ 男2 (志喜屋)
- ・ 男3 (兼島)

簡素な部屋。

机と椅子が2つずつあるだけで、閑散としている。

片方の机の上には、一〇〇円玉が大量に入った透明な容器と、透
明な空っぽのグラス、貯金箱が置かれている。

男1、男2を引き連れるようにして部屋に入ってくる。

男1 (片方の椅子を引き) あ、どうぞ。

男2 あ、どうも(座る)。

男1 ええーっと……秋山さん？

男2 あ、はい秋山です。

男1 あ、えつとー、この仕事は、初めて……

男2 あ、はい、まあ、仕事としてははい、そうですねはじめて……

男1 あ、じゃあというと……ご経験自体は……

男2 あはい、まあ、いくらかは……

男1 ああ……え、趣味で、って感じですか？

男2 いや趣味っていうより……なんか、こう、必要に駆られて、ってい
うか、

男1 ああ、あでも、経験者だったら、はい。あれですね、話が早いです
ね。少しだけ待っててもらっていいです？

男1、部屋の奥に消え、すぐに出てくる。

手には、ゴム風船が大量に入った箱がある。

テーブルの上に置き、

男1 あの、風船の膨らませ方とかって……

男2 あ、全然、はい。というかむしろ膨らませ方くらいは知らないで
すけどっていう、

男1 ああ、良かった良かった。じゃあ、もう一回確認なんですけど、秋
山さんの、に、お願いする仕事がですね、えーっと、風船を膨らませ
てもらってことなんですけど……はい。それだけ、ですね。他なん
か聞いてます？

男2 はい？

男1 いやなんか、なんか「こういう条件だよ」とかっていう話聞いて
きたのかなあ？って思っつて。

男2 いやなんか、風船膨らます仕事だよ、ってことくらいしか……

男1 あ、そう……あじゃあ給料のこととかは……

男2 あ、特に……

男1 (小声で) あ言つてないのか……ああ……じゃあ、ちょっと説明しま
すね。えつと、当社は完全出来高制なんです。なので、一つにつき、
風船一つ膨らませるにつき、あの一〇〇円？の報酬をお支払いす
るっていうことになるんですね。

男2 あ、そんなに？ え、一個ですよね？

男1 はい、一個一〇〇円ですね。

男2 ああ……

男1 あ、なんかありますか？

男2 いえ……逆に大丈夫なんですか？ そんなに貰って、

男1 いえいえ、それはもう、それだけの仕事なんで、

男2 え、風船膨らますだけですよね？

男1 はい、

男2 え、どんな風船……

男1 あ、普通の、あの……なんていうのかな、あの一番メジャーな……

男2 普段よくあるあのあれですか？ 風船……

男1 そうですね、別に全然特殊なあれじゃないですね。

男2 ああ、え、ノルマと違って、一日の、

男1 それは秋山さん次第ですね。一つで終わってもいいし、一万個とか膨らませてもいいし。もちろん、その分の報酬はお支払いするので。

あ、ただ、この部屋でだけ、つてことになるんですけど、

男2 え、一万個つてことは、一〇〇万円、ですけど。

男1 はい。

男2 あ、本当にですか？ うわ……え、じゃあ、休日とかは……

男1 あ、それももちろん自由ですね、やりたいときにやって、休みたいときに休んで、つていう。気持ちよく働いてもらうつてのがうちのあれなので、

男2 あ、はい、ありがとうございます。いや、こんなに待遇よくて、大丈夫なんですか？逆に、

男1 いえいえもう、スタッフの方には、もう、気兼ねなく仕事して欲しいので。

男2 良かったです。こんないい会社勤めれて、

男1 いえいえ。じゃあ早速、お願いしても大丈夫ですか？

男2 あ、はい。

男1 一つできたら、声かけてくださいね。

男2 あ、はい。

男2、風船を膨らませはじめる。

男1、透明なガラスのコップを男2のテーブルに移す。

男2、視線だけコップに向ける。

男1、席に座る。

男2、ある程度の大きさまで膨らませる。

男2 これぐらいですかね？

男1 おお、さすが、経験者……あ、えっと、もうちょっとだけ大きく、

男2 あ、はい（空気を入れる）

男1 あ、いいですね。

男2（風船を口から離し）あ、えっとこれは……

男1 あ、はいはい、

男1、立ち上がり、男2から風船を受け取る。

栓の部分を持ち、わずかだけ空気を抜く。

男1 うん、いいですね。オツケーです。

男2 あ、はい、ありがとうございます。

男1 へえ……あ、秋山さんって、あのお、あすいませんねなんか急に質問なんですけど、あの、秋山さんっておいくつになるんですか？

男2 あ、えっと、ニジユウ今年ナナ（27）ですね。

男1 あ、じゃあ僕とちようど一〇個差ですね、僕37なんで、

男2 ああ、

男1 若いのに上手ですね、

男2 あ、ありがとうございます。

男1、椅子に座る。

男3、（見えにくいが見えは実はグラスを持っている）いきなり歩いてきて、男1の机の前に立つ。

男2、怪訝な顔で男3を見る。

男1、男3にコインを手渡す。

男3、無言のまま男2のもとへ来て、グラスにコインを落とす。

問

男3、そのまま引き返し、男1の前に立つ。

男1、男3のグラスにコインを落とす。

男3、無言で去っていく。

問

男2（不審がって）あ、えっと……

男1 あ、彼が、お金入れていくので、そこに、

男2 ああ、はい……

男2、次の風船を手にし、膨らませ始める。

男1、持っていた風船の空気を抜いていく。

男2、膨らませるのが止まり、男1を凝視している。

男1、抜き終わると立ち上がり、萎んだ風船を男2の机の箱に戻す。そしてグラスからコインを取り、自分の席に戻る。

男2、その一連の動きを、風船を口に咥えたまま見ている。

男1 あ、ここ入れときますね、お金、貯金箱に。これが報酬になるので、

そのまま。（貯金箱にコインを落とす）

男2 あ、はい……（再び膨らませる）

男2、膨らませ終わる

男2 あ、一応できました。

男1、立ち上がり男2から風船を取り、席に戻る。

男3、出てきてコインを受け取る、男2のグラスへ落とす、男1からコインを貰う、去っていく。

男1、風船の空気を抜く、男2の箱に戻る。

男2、風船を膨らませる、完了後に合図を送る。

*この流れを何度も繰り返す。

男2 あのこと……

男1 はい。

男2 ……あのこと……

男1 はい。

男2 あのこと……辞めたい……んですけど、

男1 ……はい？

男2 すいません。

男1 え？ 何かありましたか？ 僕、なんか変なこと言いましたか？

男2 いや、ちよつとあのこと……キツくて……

男1 え、この仕事が？

男2 ……はい………すいません。

間

男1 ああ………そうですか、わかりました………はい、あのお、短い時間で

したけど、お疲れ様でした。

男2 すいませんでした。

男2、頭を下げて、部屋を出て行くこととする。

男1、それを制止し、貯金箱を渡す。

男2、貯金箱を手に部屋を出て行く。

男1、椅子に座る。

間

男1 (大きく息を吐く) はあ………ゆとりなあ………

間

照明C・O

了